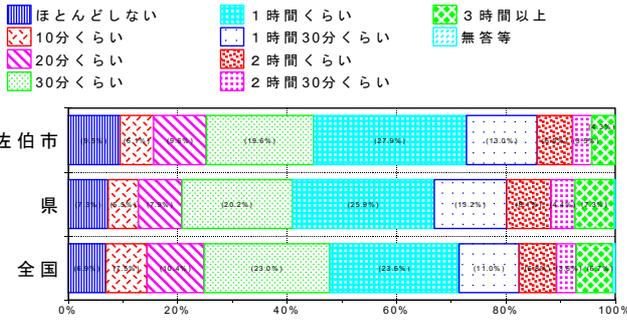




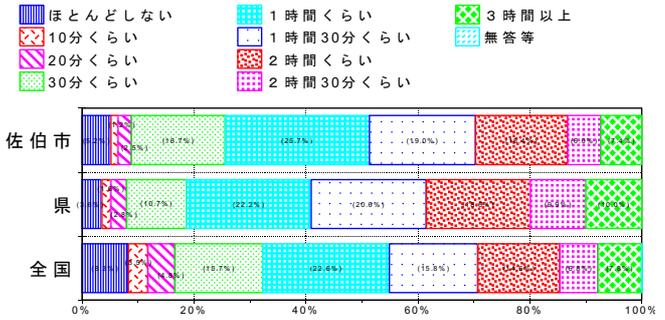
【大分県基礎・基本の定着状況調査児童生徒質問紙（小5・中2）の結果】（一部抜粋）

Q あなたは、この一か月、学校の授業時間以外に、一日どれくらい勉強しましたか。  
 （学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に見てもらっている時間もいれます。）  
 （学校の授業がある月曜日から金曜日について）

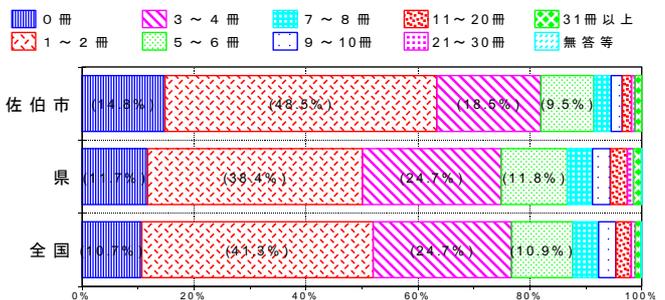
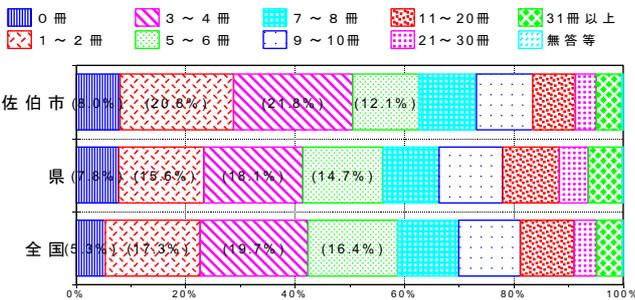
小学校5年生



中学校2年生

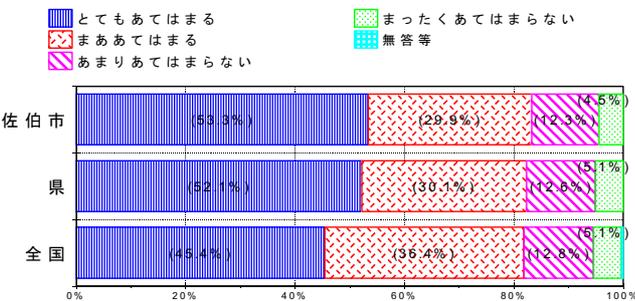


Q あなたは、この一か月の間に、本を何冊くらい読みましたか。  
 （教科書や参考書、マンガはのぞきます）

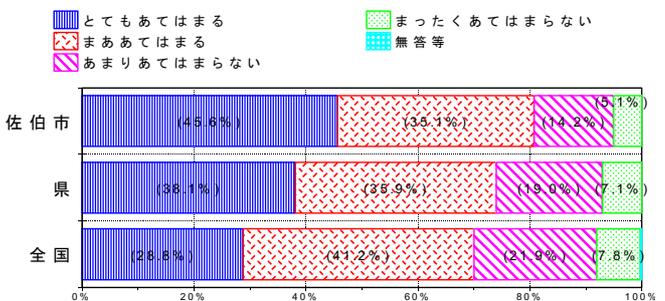


Q 学校での出来事を、家の人に話している。

小学校5年生



中学校2年生



【平成23年度の全国学力・学習状況調査は中止されました】

- 1時間以上の学習時間の割合を見ると、小学校5年生の平日の家庭学習時間は、5割以上となっており、県平均を下回ったものの、全国とほぼ同じ状況となりました。中学校2年生についても、県平均を下回ったものの、全国の平均を上回っています。今後も家庭学習の時間の充実に向け、質的な向上も視野に入れた、家庭・学校間の連携がより重要になってくると思われます。
- 一ヶ月間の読書については、小学校5年生で5冊以上読む児童は県や全国の平均を大きく下回っています。また、中学校2年生で3冊以上読む生徒も県や全国の平均を大きく下回っています。「0冊」か「1～2冊」の児童生徒が多いことがわかります。文字を早く読む、文意を読み取る、他の人の考えを知る、想像力を伸ばす等、読書にはさまざまな効果が期待されます。今後は、家庭との連携の下、読書習慣をつける取組がより重要になってくると思われます。
- 学校での出来事を家の人と話しているかどうかについては、小学校5年生については肯定的な回答の割合が国・県とほぼ同程度であるといえます。中学校2年生については、肯定的な回答が国・県の割合を少し上回っているといえます。家庭との結びつきがしっかりとしていることがうかがえます。